

## 『行政とのいい関係』にむけて、行政、クラブは何をすればいいのか

### 1. 行政の側から

#### (1) 計画・方針等に位置付ける

行政は全てにおいて計画、方針に沿って事業を推進しますので、「総合型地域スポーツクラブの推進」を明確にスポーツ振興計画、教育基本方針等に位置づける事が先決です。

なぜなら、総合型地域スポーツクラブはこれからのスポーツの推進にとって必要不可欠であるし、クラブを設立し、育成していく上で様々な問題が生じてきますが、これが問題解決の原点となるからです。

このように明確に位置付けをしておく、行政側がクラブ側に対して様々な協力、手立てをしていく場合、クラブ員と非クラブ員との平等性の関係、その他多くの問題が必ず生じてきますが、その時の後ろ盾となるからです。

この位置付けは、行政がクラブづくりを推進する上でなくてはならないものです。

#### (2) 「人」を確保し、理念を共有する

さて、クラブづくりにおける行政の果たさなければならない役割は、まず地域住民に対しきっかけを与えることです。それにはやはり情熱を燃やせる「人」を探すことからでしょう。

クラブづくりには多方面の方が参画すると思います。たとえば、体育指導委員等の体育関係者が日頃スポーツ振興を推進する立場であっても、積極的活動が出来て自ら汗をかき困難に立ち向かう気持ちが無ければ情熱は期待できません。

クラブづくりが成功するか失敗に終わるかは、当初のこの「人」の確保で決まると言っても過言ではないでしょう。急がず、じっくり時間をかけて見つけることが大切です。

「人」の確保が出来たら自分達の描く「クラブ像」について十分な協議をし、クラブの理念を共有することが必要です。ここまで出来たら、その後のクラブづくりは困難あっても必ず成功すると思います。

この「人」と「クラブ像」について、十分過ぎるぐらいの時間を費やしてください。一番大切なところですよ。

### (3) 継続的な支援を実施する

地域住民で最初から全てが出来ればいいのですが、そういう訳にはいかないのが現状であり、当初はやはり全面的な行政支援が必要です。しかし、行政がいつまでも関わりすぎて、もちろんいけません。

クラブ設立の準備段階では、中心的役割そして事務処理など行政の大きな力が必要ですが、クラブづくりが進めば進むほど、極力クラブ側に考え行動させることが大事です。

しかし勘違いしてはいけないのが、行政の役割はここまで後は全てクラブで、と言うものではありません。同じスポーツ振興を推進する立場として行政とクラブは連携・協働していなくてはなりません。

行政がこれまで多くの人、お金をかけて実施してきたスポーツ振興を地域住民が自ら推進するのですから、的確な助言、情報の提供、施設使用面での便宜を図るなど側面的協力は最大限実施していきたいものです。

## 2. クラブの側から

### (1) 行政を動かす

クラブ側が行政に相談しても、協力してもらえない、あっさり断られる等よく聞きます。これは、行政側の「総合型地域スポーツクラブ」への理解不足であり、厳しく言えば怠慢としか思えません。

総合型地域スポーツクラブの推進は、今日ではスポーツ行政の柱であり、地域スポーツの充実はもとより行政の効率化、地域活性化にも大きく役立つのです。

それではどうしたら行政を動かせるのかについて述べてみましょう。

スポーツ担当課職員で対応が大きく変わるのが現状ですが、これは行政として本来はあってはならないことです。

最初に述べたとおり、「総合型地域スポーツクラブの推進」をスポーツ振興計画等に位置付けることが行政のやるべき第一歩です。そうすることにより積極的に取組まなければならない環境が整ってきます。

この環境づくりに行政側とクラブ側が一体となって取組むことが理想ですが、行政に積極性がないのであれば、市民の声を市政に反映させる役割のある市（町村）議会で提案してもらうのも一つの方法でしょう。

### (2) 担当者を動かす

環境が整えば後は推進するだけですが、スポーツ担当者に積極性が無ければ、クラブづくりは前進どころか後退です。しかし、クラブ側は積極的な職員が配置されるまで待つことは

できません。

この担当者をいかに動かすかにかかってきますが、一番の早道は一人の住民としてクラブの役員になってもらうことです。クラブを理解していないのに承諾させるのは至難の業ですが、ここに大きな力を注いで何とか説得をしてみることです。

また、役所にはスポーツ担当課職員ではないけれどもスポーツ好きな「気の利いた職員」が必ずいるはずです。そんな職員をクラブに取り込むことができれば、担当課職員との連携が上手く取れる可能性は大です。同じ職員同士であれば、思った以上に協力してくれるものです。

### 3. まとめ

地域スポーツ振興を推進する上で、行政とクラブは仲良しでなくてはなりません。なぜなら目的は同じだからです。どちらかが欠けてもうまくいきません。

両者がいい関係を築く「コツ」はなかなかありませんが、とにかく対話が一番だと思えます。必ず定期的に実施して欲しいものです。

宮崎県えびの市では、市内3つのクラブが合同で行政と毎月定例会を開催しています。ここでお互いに要望や問題を出し合い、協議し解決していますが、担当者とのコミュニケーションがとれることにも意義があると思えます。

また、行政職員もクラブに夢を持って仕事をして欲しいものです。そうなれば、仮に担当でなくなってもクラブ員として残って活躍してくれるでしょう。

クラブ側も、決して行政依存になることなく、逆に上手く使いこなすことが出来たら、クラブの成長速度も速まること間違いなしです。

(奥松成安：地方企画班員、真幸ホットほっとクラブ 理事)

#### 【奥松成安氏プロフィール】

えびの市役所観光商工課課長補佐 兼 企業誘致・商工振興室長

えびの市教育委員会社会教育課市民体育係長として、市内3つの総合型地域スポーツクラブの「真幸ホットほっとクラブ」(平成18年2月設立)、「いいの夢クラブ」(平成19年4月設立)、「いい汗加久藤クラブ」(平成20年3月)の設立を支援する。また、地域住民の一員として、それぞれのクラブの理事を務め、クラブ運営にも携わっている。平成21年4月より現職。